

歴史とロマン溢れる

義経



Yoshitsune Dream Road

ドリーム ロード



歴史ロマンがいっぱい!

義経伝説

～伝説の戦いは、小松島への上陸から始まった～

源平合戦での活躍で知られる武将、源義経。

地元ボランティアガイドの芝原さんの話をもとに、

小松島が誇る歴史ロマンにふれてみましょう。



奇襲を狙って 小松島から北上

日本各地に数々の伝説を残す源義経は、平安時代末期の武将です。鎌倉幕府を開いた源頼朝の弟にあたり、子どもの頃は牛若丸と呼ばれました。京都の五条大橋で、弁慶と一戦交えて家来にしたという物語を読んだことがある方も多いのではないのでしょうか。

実は小松島にも、そんな義経にまつわる伝説がたくさん残っています。平家と源氏の戦いである「源平合戦」の際、彼は戦の天才として数々の功績を残しました。なかでも有名な戦いが、一ノ谷の戦い、屋島の戦い、そして平家を討ち滅ぼした壇ノ浦の戦いの3つ。このうち、屋島の戦いの時に大阪の港から出航した義経が、最初に上陸したのが小松島と言われているのです。義経の狙いは、敵の背後から奇襲をかけるため、兵馬をひそかに四国に上陸させることにありました。



地名からも感じる 義経の足跡

暴風雨のなか小松島にたどり着いた義経は、それぞれの軍船に乗った家来たちを集結させ、源氏の象徴である白旗をかかげて士気を高めました。この時、家来たちを集めた場所を「勢合」、白旗を立てた場所を「旗山」と呼び、今も地名として残っています。

そしていよいよ屋島への進軍が始まるのですが、この時に通った道が、

今に伝わる「義経街道」です。義経は平家側についていた熊山城と桜間城を破り、県境にある大坂峠を渡って、一夜のうちに屋島にたどり着いたと言われます。

このうち、義経ゆかりの地を結ぶ小松島市内の約10キロメートルは「義経ドリームロード」と名付けられ、案内板や道標などが立てられています。車で移動すれば1日で回ることもできるので、観光ルートとしてもお勧めです。当時に思いを馳せながら、伝説の地を巡ってみてください。



義経ドリームロード
現地ボランティア
ガイド 芝原計夫さん
義経ゆかりの地をガイドする観光ボランティアとして活躍中。興味のある方は小松島商工会議所(0885-32-3533)まで。

よしつねむさうさい 義経夢想祭に行こう

義経が上陸したとされる2月18日にちなみ、毎年2月中旬の日曜日に「義経夢想祭」を開催。義経ドリームロードを巡るオリエンテーリングなどを実施しています。当時の衣装を着た源義経や弁慶、静御前と一緒に、伝説の地を歩きましょう。

●問い合わせ先
小松島市総務課政策情報室
TEL.0885-32-2127



小松島と 義経の こんな関係

まだまだ
あるぞ



小松島には、義経にちなんだ興味深いエピソードがいっぱい。
その一部を、ちょっぴりご紹介します。

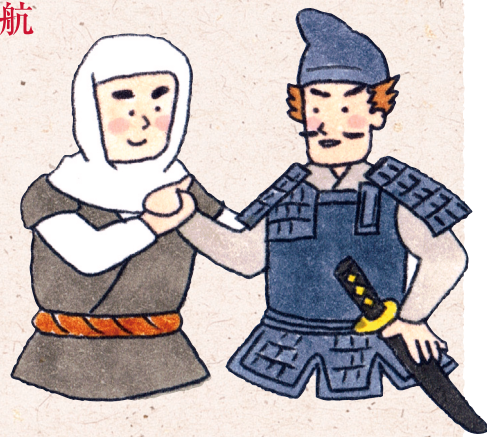
義経に愛された 静御前も小松島に

義経に愛された美女、静御前（しずかごぜん）。彼女もまた、義経の後を追って小松島に上陸したという伝説が残っています。立江町の八幡神社には、彼女が衣装を掛けたとされる「静御前衣掛け松」の古株が残っています。



弁慶が水軍と交渉し 紀伊水道を渡航

摂津（大阪）の港から小松島へと移動するにあたり、義経の忠臣である弁慶が熊野水軍と交渉を行ったとされています。春の嵐の中を5隻の軍船で出帆し、わずか6時間ほどで小松島に到着したとの言い伝えも。驚きの早さですね。



地元城主の 力を借りて 力強く進軍

地元の新居見城主・近藤六親家（こんどう ろくちか いえ）は、義経の進軍を助けた人物として名を残しています。義経が小松島に上陸した際に率いていた軍勢はわずか150騎。そこに近藤六親家の200騎を加え、熊山城（徳島市）や桜間城（石井町）を攻め破りながら屋島をめざしました。



名物の竹ちくわを 義経も絶賛

小松島の水産加工品として人気の竹ちくわ。地元の漁夫たちが小魚の身を練り合わせ、青竹に巻きつけて焼いたものを義経が食べ、その芳香と味を絶賛したとも伝えられています。小松島に訪れた際には、義経気分竹ちくわを味わってください。



義経ドリームロードを 巡る



義経が四国上陸を果たしたとされる田野町勢合を起点に、中王子まで約10kmを結ぶ夢街道。事実と伝説が交わる義経ドリームロードを巡って、歴史ロマンを感じてみませんか。



1 勢合

(田野町勢合)

摂津を出兵した義経軍が、わずか6時間で小松島に到着し軍船を集めて勢揃いした場所。近くには義経馬蹄洗池、弁慶勢くりの岩、弁慶橋といった伝承地が存在しています。

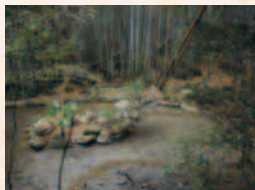


しゃかあん

2 釈迦庵

(田野町中須)

釈迦寺谷にかつて存在した寺。旅の安全を祈る仏足石や、安産祈願のむつき堂が今も残っています。古道に面するこの付近を義経は一気に駆け抜けました。



つるはりざか

3 弦張坂

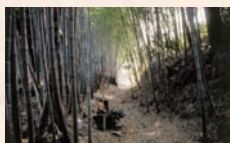
(田野町中須)

釈迦庵の横手から伸びる緩やかな上り坂。峠の向こうに潜むかもしれない敵を警戒して弓の弦を張ったまま登ったことから、この名前が付けられました。

4 弦巻坂

(田野町恩山寺谷)

この坂の向こう側に敵の姿がないことを確認した義経は、配下に弓の弦を巻かせました。弦巻坂から旗山へ向かう間に県の天然記念物に指定されている「びらんじゅ」の木があります。



5 旗山

(芝生町宮ノ前)

騎馬像として日本一の義経像がそびえる旗山。その高さは6.7mを誇ります。義経はこの地に源氏の旗印である白旗を掲げ、武将たちの士気を鼓舞し、屋島をめざしました。



6 天馬石

(芝生町宮ノ前)

その昔、源平合戦で名を馳せた名馬・池月が天から舞い降り、この地で石と化したという伝説があります。この石にまたがると、腹痛を起こしてしまうとも言われています。

7 弁慶の岩屋

(芝生町大獄)

土地の豪族の横穴式古墳で6世紀の後半につくられました。「弁慶ほどの力持ちでなければつくりださう」ということから、地元の人々によって弁慶の岩屋と名付けられたと言われています。



8 新居見城跡

(新居見町東山下)



義経に協力し、屋島までの道案内を買って出た近藤六親家(こんどうろくちかいえ)の居城跡。当時は周辺に200余名の配下を抱える、地元の有力な武将だったと言われています。

9 くらかけの岩

(新居見町山路)

新居見城跡に近い春日神社の境内にある大岩。熊山城攻略のため進軍する義経が、戦の前にこの岩に馬の鞍を下ろして、休憩をとったとされる場所です。



10 中王子

(田浦町中西)

勝浦川を挟み対岸に位置する熊山城を攻略すべく、陣を構えた戦略を練った場所。義経はここから一気に川を渡り平氏軍を急襲し、勝利を掴んだと言われています。

歴史と伝統を巡る こまつしまMAP

義経が巡ったドリームロードと金長たぬきのスポットをひとつの地図にまとめました。
小松島を訪れた際には、ぜひ一緒に巡ってみてください。



小松島ステーションパーク

この他にも小松島にはたくさん
のたぬきスポットがあるんだ。
あなたのお気に入りのたぬきを
を、ぜひ、探してみてください。



約10キロメートルの義経ドリームロード。歴史好きにはたまらない、ロマン溢れるスポットが点在しているよ。

とくしま旅づくりネットを
活用しよう!

徳島県東部の12市町村により結成された「とくしま旅づくりネット」。小松島市も参加しており、それぞれの観光資源を活かしたネットワークづくりに取り組んでいます。たぬきと義経のスポットは徳島市等連携市町村にもあります。



07 ためきのポスト

ステーションパーク SL記念広場

ステーションパークSL記念広場のすぐ横に設置されたポストには、木魚を抱えたためきの姿があります。



08 小松島市役所 横須町

市役所正門には阿波踊りの衣装をまとったためきが、可愛い姿で来庁者を歓迎してくれます。

09 金長ためき郵便局

小松島町

全国で初めて動物の名がつけられた郵便局。ためきが描かれたオリジナル絵ハガキや珍しいためき型の消印があります。



10 八千代橋 たもと

南小松島町

小松島の名産品である竹ちくわに挟まれた2匹のためき。八千代橋完成を記念して設置されました。

11 JR牟岐線 南小松島駅

南小松島町

列車の乗降客を見守る「ばんぼこ一家の像」は、すぐそばの湧水とともに住民に親しまれています。



12 小松島郵便局

堀川町

大きなためきの看板や玄関付近の9匹のためき像が、訪れたお客さんを笑顔で出迎えてくれます。

小松島の

ためき・大集合 ほかにもいっぱい！

小松島市を歩けば、ためきの愛らしい姿がそこかしこに。ここに掲載されている以外にも、たくさんなためきたちがみなさんのことを迎えてくれます。



01 大将・金長

ステーションパーク ためき広場

金長軍の大將。宿敵・六右衛門に勝利しますが、自らも深い傷を負って亡くなってしまいます。



02 参謀長・衛門三郎

ステーションパーク ためき広場

「正二位」の称号を持ち日露戦争に従軍し武功をあげたともいわれる猛者。金長軍の参謀長として奮闘しました。



03 軍師・田浦太左衛門

ステーションパーク ためき広場

金長軍の軍師。普段は大酒飲みだが、戦となると自慢の北辰一刀流を武器に大活躍します。



04 忍者・一本松のおたけ

ステーションパーク ためき広場

俊敏な動きで敵陣の偵察を行う女忍者のひとり。金長軍の勝利に陰ながら貢献しました。



05 旗本・藤の樹寺の大鷹

ステーションパーク ためき広場

金長が最も信頼を置いていた家臣ですが、敵の謀略から金長を守るために討死にしています。



06 藤の樹寺の 小鷹・熊鷹

ステーションパーク ためき広場

藤の樹寺の大鷹の子どもの父親の敵を討つべく奔走。金長亡きあと小鷹は二代目金長を襲名します。



金長の忠臣たちも 人々に愛される神様に

阿波狸合戦の中で、金長が一番信頼を寄せていたとされる家臣の大鷹、その子である小鷹と熊鷹が神様としてまつられているのが「藤樹寺（藤の樹寺）」です。「大鷹・小鷹・熊鷹大明神」となった彼らは、農家や漁師を守り、交通安全や厄除けにご利益があるとされています。



消印にたぬきのマーク!? 金長だぬき郵便局

日本で最初に動物の名前が付いた郵便局が、小松島にあります。その名も「金長だぬき郵便局」。たぬぎをあしらったユニークなハガキが売られているほか、ハガキを出すと金長たぬぎのオリジナル消印を押してくれます。小松島に遊びに来たら、ぜひ訪ねてみましょう。

金長の

こんな裏話、
知ってた？

世界一大きな 狸の銅像にビックリ

小松島ステーションパークには、世界一大きなたぬきの銅像があります。その高さは、なんと約5メートル。像の前に立って手を叩くと、音に反応して滝が流れる仕組みになっています。巨大金長の迫りに圧倒されること間違いなし！公園内には、阿波狸合戦に登場するキャラクターの石像も置かれていますので探してみてください。

金長にまつわる面白エピソードや
観光スポットが、小松島にはいっぱい。
興味があれば、実際に足を運んでみよう！

事典 雑学

金長神社の宮司は 大和屋の六代目



新興キネマ（後の大映）が映画の大ヒットを記念し、日峰山の山中に「金長神社本宮」を造ったのが昭和14年のこと。その後、戦後の再映画化の際に「金長神社」が山のふもとに

造られました。社殿の中には狸の置物などが奉納され、商売繁盛や開運の神様として人気です。ちなみに、宮司の梅山さんは、金長を助けた大和屋の6代目にあたります。

金長の実写映画に 日本中が熱狂!

戦前から戦後にかけて「阿波狸合戦」が何度も実写映画化。有名な俳優や女優も出演し、空前のヒットを飛ばしました。近年では、ジブリ映画の「平成たぬき合戦ぼんぼこ」に6代目金長が登場。アニメの中には、小松島の風景を思わせるシーンが描かれています。



義理人情と正義の物語

阿波狸合戦



小松島が誇る金長ためきは、

民話「阿波狸合戦（あわたためきがっせん）」の主人公です。

その義理人情あふれる物語のあらすじを、

市民講談師の阿洲斎楽天さんに語っていただきました。

江戸時代の末ごろ、日開野の染物商

「大和屋」の主人である茂右衛門（もえもん）が松の大木の前を通りかかると、大勢の者が大木の中に潜んでいた狸をあぶり出そうとしていました。かわいそうに思った茂右衛門は、その者たちにお

金を与えて狸を助けたのです。その狸の名は金長。恩返しをするために大和屋に移り住んだ金長は、守り神となつて店を大いに繁盛させたのです。

その後、金長は狸としての位を高めるため、四国の狸の総領である津田の六右衛門（ろくえもん）のもとに修行に出掛けます。メキメキと才覚を伸ばす金長を見て、六右衛門は自分の娘の鹿の子姫（かのこひめ）と結婚し、養子になることを勧めました。しかし金長はその誘いを丁寧（ていねい）に断り、茂右衛門への恩返しのために故郷へと向かうのです。

金長をこのまま帰せば、やがて自分の脅威になると考えた六右衛門は、大勢の追っ手を差し向けました。このとき一番弟子の大鷹は金長をかばって戦死。命からがら小松島にたどり着いた金長は、仇討ちのため仲間の狸たちを

呼び集めました。

そしてついに、勝浦川を挟んで「阿波狸合戦」と呼ばれる一大決戦が幕を開けるのです。集まった狸は、各軍ともに約六百匹ずつ。その死闘は三日三晩に及びました。激闘の末、金長

はついに六右衛門を討ち取りますが、自分も深手を負ってしまいます。金長は力を振り絞って日開野に帰り、茂右衛門に礼を述べた後に力尽きました。その生き様に感動した茂右衛門は「正一位金長大明神」として金長をまつりました。日峰山のふもとにある金長神社には、今も多くの人が参拝に訪れています。

語り手

市民講談師
阿洲斎 楽天
小松島市出身の講談師。「小松島語り部協会」の代表として、阿波狸合戦の面白さを伝えています。



金長のもとに集まった 頼もしい仲間たち



いっぽんまつ
一本松のおたけ

金長軍の女忍者。仲間とともに敵状の視察を行い、衛門三郎に情報を提供しました。



えもんさぶろう
衛門三郎

金長軍の参謀長。若い頃は勇敢な武者として活躍し、数々の武勇伝を持っています。



ふじのきでら
藤の樹寺の
小鷹

大鷹の子。父の仇打ちのために金長軍として戦い、金長の遺言により二代目金長を襲名。

ふじのきでら
藤の樹寺の
おおたか
大鷹



金長の一番弟子。金長の修行に同行し、帰る途中で敵に襲われて無念の死を遂げます。



阿波狸合戦の主人公。彼の生き様に感動した茂右衛門は「正一位金長大明神」として長くまつつたと言われています。



たうら たざえもん
田浦太左衛門

金長と大鷹の剣の師匠。阿波狸合戦では、軍師として金長を助けました。



ふじのきでら
藤の樹寺の
くまたか
熊鷹

小鷹の弟。幼くして金長軍に加わり、兄とともに勝利に貢献しました。

金長たぬきのふるさと

振り向けば
たぬきが踊る
小松島

